

# 杉並区みどりの基本計画 検討委員会 (第2回)

1

令和5年10月4日(水) 午前10時00分～  
分庁舎5階 A会議室

## 本日の進め方

- 前回の振り返り
- 改定の視点について
- 基本方針の設定
- 目標の設定
- 取組一覧について

今回とくに  
ご意見をいただ  
きたい項目

# 前回の振り返り

3

# 前回の振り返り

4

委員から頂いた主なご意見	資料への反映など
検討委員会の進め方について	
改定の視点について議論をした方が良い	第2回目でははじめに改定の視点についてまとめました
改定の視点について	
流域対策とみどりを連携させていく考えが必要	改定の視点に入れられるよう検討しました
みどりがウェルビーイングに大きく貢献する	
防災という観点からも農地は必要、具体的なメリットを盛り込むことで区民の共感を得られる	
一時的な取組があったとしても、子どもたちに対するみどりの教育がなければ計画は形骸化する	
目標について	
上空だけでなく、3次元から見るみどりも重要	緑視率を目標に設定しました
現行の取組実績について	
マンション開発などで緑化がされていない箇所もある	新たな取組の内容で見直しを図っていきます

# 改定の視点について

# 改定の視点

6

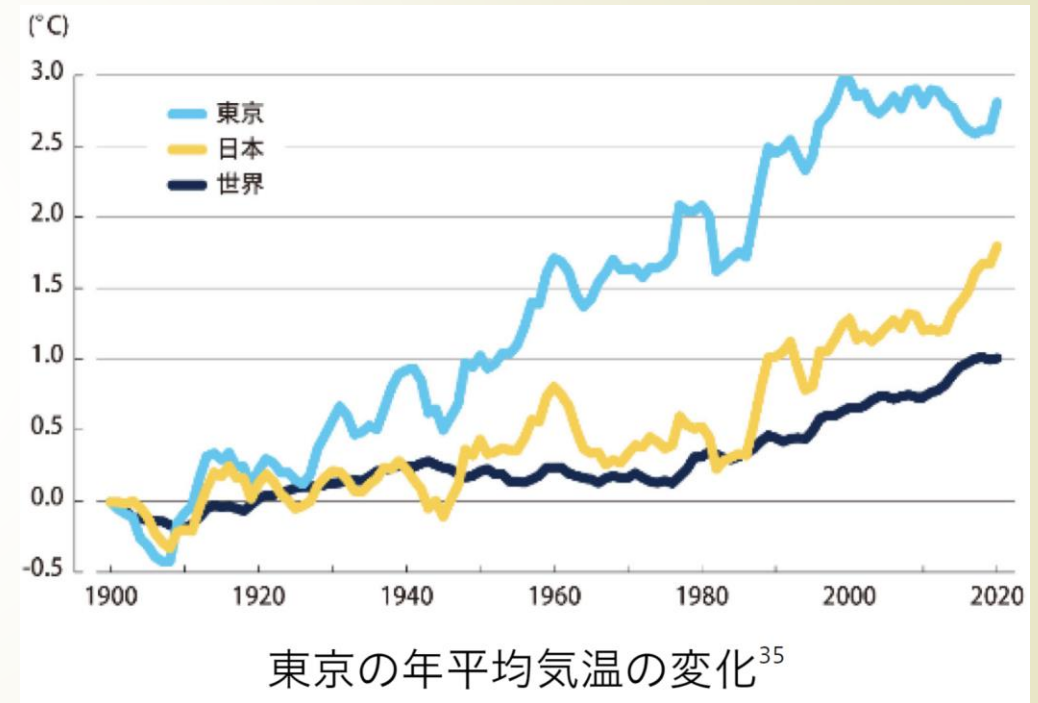
改定の視点（現行計画）	検討委員会で受けたご意見 加えるべき新たな考え方など	改定の視点（今回提示）
地球規模での環境問題への対応	気候変動、気候危機、 カーボンニュートラル	直面する気候危機に立ち向かい、 多様な生き物が生息できる 空間づくり
生物多様性の向上に向けた取 り組み	OECM、生物多様性	
安全安心なまちづくりの対応	防災、グリーンインフラ	グリーンインフラを活用した 持続可能で安全安心なまちづ くり
後世に伝える“杉並らしさ”の 保全		杉並の原風景から見る“杉並ら しい”みどりのあり方
協働によるみどりづくりの仕 組みの確立	ウェルビーイング、SDGs	みどりに関わる多様な立場を 理解し、自分事として考える

# 改定の視点

7

## ① 直面する気候危機に立ち向かい、多様な生き物が生息できる空間づくり

- 地球規模で気温の上昇が続き、極端な気象現象、農作地の減少、疫病の蔓延スピードの上昇など一刻も早く手を打たなければ手遅れになる。
- その中で「気候変動はもはや気候危機である」という国連の発信を受け、各国の取組が加速しつつある。
- 気候危機は生物多様性の損失も引き起こし人類にとっての2つの脅威は不可分であることから、気候危機と生物多様性は同時に取り組む必要がある。
- 2つの脅威に立ち向かうにあたって、みどりに関わる取組が貢献できる部分は多い。



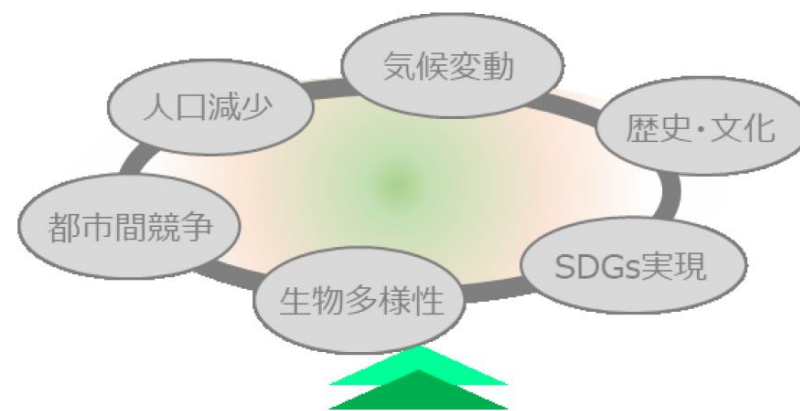
# 改定の視点

8

## ② グリーンインフラを活用した持続可能で安全安心なまちづくり

- 今までは自然災害の被害を抑えるため、人工構造物（グレーインフラ）によって社会の安全を確保してきた。
- しかし気候危機によって頻発する豪雨は想定を上回り、人工構造物だけの対応には限界がある。自然環境が有する多様な機能をインフラ整備に活用する、グリーンインフラの考えが求められている。
- 加えて将来想定される首都直下型地震の防災・減災にはオープンスペースの確保などが必要となり、グリーンインフラの取組と重なるところが大きい。
- みどりは、平常時には区民の憩いやレクリエーションの場を提供する一方、防災・減災にも寄与するなど、グリーンインフラの中心的な取組として位置付けられる。みどりを軸に持続可能で安全安心なまちを目指す。

互いに関連し複雑化する都市の社会課題



### グリーンインフラの取組

社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、**自然環境**（緑、水、土、生物等）が有する**多様な機能**を活用し、**持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくりを進める取組**

グリーンインフラの特徴

多様な機能を有する

多様な主体が参画する

時間の経過とともに機能を発揮する



## ③ 杉並の原風景から見る“杉並らしい”みどりのあり方

- 杉並区では大正中期まで畑や水田が広がり屋敷林が点在していた。そういった光景は人々の中に今も残り、杉並の原風景となっている。
- 杉並の原風景となる屋敷林・農地を区民共通の資産として位置付け、後世に継承していくことは全区民の責務。
- あわせて、発展に伴って変化を続けるまちの中においては、原風景となる屋敷林と農地を残しつつも、低層住宅地である杉並ならではのみどりの形やあり方を考え、増やしていくことも必要。
- 屋敷林と農地を中心とした杉並らしいみどりが地域固有の景観を形成し、杉並の魅力を自然に高める。



切通し公園（井草川源流）

## ④ みどりに関わる多様な立場を理解し、自分事として考える

- みどりを通じた交流はゆるやかに人々をつなげ、「Well-being（心身と社会的な健康を意味する概念）」をもたらすことがコロナ禍を経て再認識され、みどりの重要性はますます高まっている。
- しかし生活様式の変化に合わせて区民の価値観やみどりへの関わり方も変化してきた。
- みどりが好きな人と関心のない人、見上げる樹木を所有する人と隣接に住む人、一方の立場から主張するだけではみどりを守り、増やすことはできない。多様な立場を理解し、共通解を見つける場や機会が重要となる。
- 一部の支えだけでは都市の中でみどりを維持するのは難しい。一人一人がみどりについて関心を持ち、「自分事」として考えてもらうことが重要。



公園づくりワークショップ



ボランティアによる落ち葉掃きや花壇

# 基本方針の設定

# 基本方針の設定

12

## 課題

- ・屋敷林、保護樹木・保護樹林、農地の減少への対応
- ・多様な公園機能の発揮（特に小規模な公園について）
- ・目に触れる緑視景観の向上
- ・生態系への配慮
- ・気候変動に伴う災害への対応（雨水流出抑制対策等）
- ・みどりのネットワーク形成
- ・次世代の担い手の育成
- ・学校の教育現場との連携（緑化副読本等）
- ・持続的な活動に対する支援のあり方

## 改定の視点

### 基本方針1 みどりを守ろう

取組一覧

### 基本方針2 みどりを増やしつなげよう

取組一覧

### 基本方針3 みどりの質を高めよう

取組一覧

### 基本方針4 みんなでみどりを育てよう

取組一覧

目標①  
緑被率

目標②  
緑視率

目標③  
区民満足度

# 基本方針の設定

13

## 基本方針（現行計画）

身近なみどりを守ろう

新しいみどりを創ろう

みどりの質を高めよう

みどりでまちをつなげよう

みんなでみどりを育てよう

## 基本方針（今回計画）

みどりを守ろう

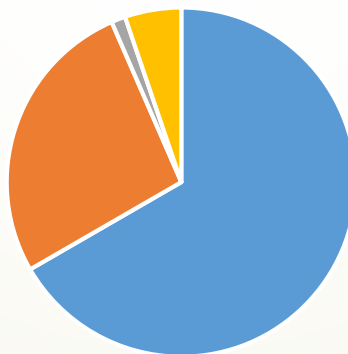
みどりを増やしつなげよう

みどりの質を高めよう

みんなでみどりを育てよう

区民モニター  
アンケート調査結果

- わかりやすいので今のままで良い
- 減らした方が良い
- 新しい項目を増やした方が良い
- 異なった視点で基本方針を考え直した方が良い



モニターアンケート調査結果をもとに、方針を4つにまとめた。  
覚えやすさ、イメージのしやすさを重視した。

# 目標の設定

# 目標の設定

15

## 目標設定

目標1	目標2	目標3
緑被率25%	緑視率25%	区民満足度80%

## 目標年次と計画期間

※杉並区総合計画や杉並区まちづくり基本方針と整合させる必要があることから、令和12年度までの計画期間とする。

目標年次は現行計画に合わせ、令和14年度

# 目標の設定

16

## 目標1：緑被率25%

継続

### 目標設定の理由

- 緑被率は他自治体の多くが目標として採用している。杉並区のみどり量が他自治体と比較して、また広域的に見てどの程度なのかを把握するとともに、みどり量をどの程度まで確保していくかを測る指標として有効であるため。

### 目標数値の理由

- 杉並区では平成11年の当初計画から緑被率を採用し、目標数値を25%としてきた。高い目標ではあるが引き続き、目標数値を変えずに取り組む。

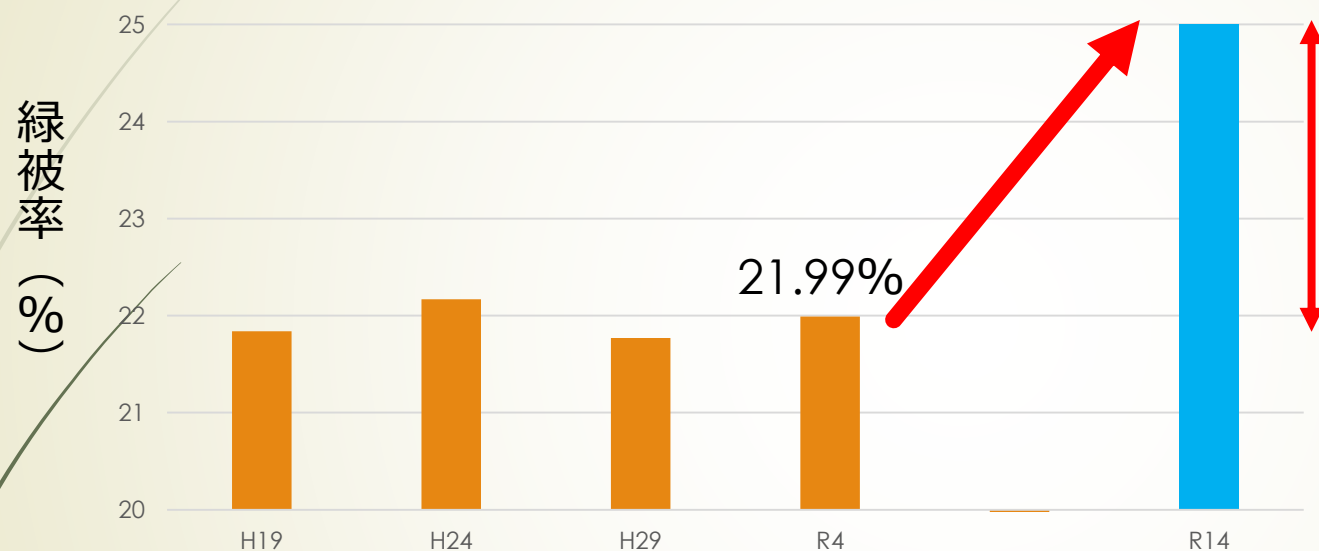


# 目標の設定

17

## 目標1：緑被率25%

継続



達成するには…  
102haの緑被地が不足



### ・パターン①

不足分すべてを、区が土地を取得し公園緑地等に整備することで目標達成するには、杉並区一般予算規模の3倍以上が必要

### ・パターン②

区内の建物12万棟で不足する緑被地を増やすには、1棟あたり8.5㎡が必要

# 目標の設定

18

## 目標2：緑視率25%

変更

### 目標設定の理由

- 緑視率は、区民目線でみどりの豊かさを直接評価する指標として有効であり、実感できるみどりを計る方法として活用できるため。

### 接道部緑化率（現行目標）との比較

- 接道部緑化率は道路沿いに植栽された生垣等しか数えないことから、道路から離れたみどりは対象にはならない。一方、緑視率は障害物がなければみどりの範囲をすべて把握できることから、実態をより正確に反映できる。

緑視率調査では奥にあるみどりも「緑化あり」に

接道部緑化調査では「緑化なし」と判定



# 目標の設定

19

## 目標2：緑視率25%

変更

### 目標数値の理由

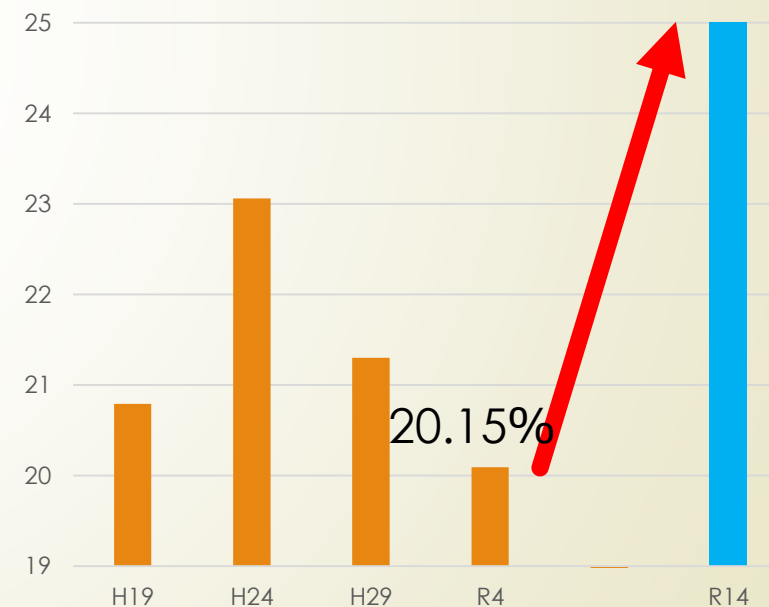
- 国土交通省による社会実験によれば、25%以上の緑視率があると、緑が多いと感じる人が多くなる傾向が見られたことから。



平均緑視率21.09%



目標25%の緑視率



# 目標の設定

20

## 目標3：区民満足度80%

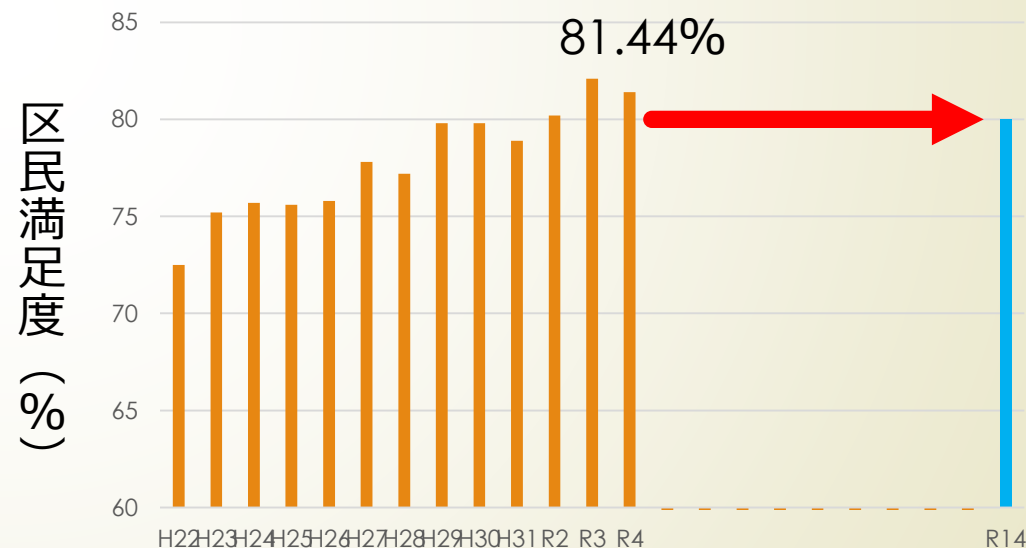
継続

### 目標設定の理由

- 区民の満足度が高まることは、みどりの質向上にも大きく寄与する。区民意向調査による区民満足度は直接的に評価するアウトカム指標として適しているため。

### 目標数値の理由

- 同じように区民満足度を目標としている他自治体と比較しても、80%は高水準であることから、今後は達成した目標水準を下げないような取組を目指す。



# 取組一覧について

## 基本方針1 みどりを守ろう

### 樹木・樹林地の保全

- 1 - 1 保護樹木等の支援拡充
- 1 - 2 市民緑地制度等を活用した緑地保全

### 農地の保全

- 1 - 3 生産緑地制度による農地の維持
- 1 - 4 農とのふれあいの機会の充実

## 基本方針2 みどりを増やしつなげよう

### みどり量の確保

- 2-1 緑化指導・誘導の充実
- 2-2 核となる公園の整備
- 2-3 身近な公園の整備
- 2-4 みどりの拠点づくり

### みどりのネットワーク

- 2-5 エコロジカルネットワークの充実
- 2-6 みどりのベルトづくりの推進

## 基本方針3 みどりの質を高めよう

### 安全安心で区民ニーズに応える公園づくり

- 3-1 多世代が利用できる公園づくり
- 3-2 公園施設長寿命化計画の推進
- 3-3 良好な公園等樹木の維持管理

### 生き物を支えるみどりと水

- 3-4 生き物の生息場所の確保
- 3-5 在来種植物の生息充実
- 3-6 みどりのリサイクル
- 3-7 雨水の地下浸透化の促進

### まちなみ景観を支えるみどり

- 3-8 良好なまちなみ景観の形成



## 基本方針4 みんなでみどりを育てよう

### 区民・事業者とのパートナーシップ

- 4-1 区民主体によるみどりづくり
- 4-2 地域による屋敷林・農地の支援
- 4-3 民間を活用した公園整備・運用
- 4-4 みどりの基金の積み立て・運用

### みどりへの関心の向上

- 4-5 環境学習の充実
- 4-6 みどりの情報の発信・イベントの開催
- 4-7 多様な立場で対話できる場の創出